

サービスホールからのお知らせ

- ◆ サービスホールでは、以下の日程で発電所の現状に関する説明会を継続実施しています。参加をご希望の方は、是非この機会にご来館ください。
- ◆ なお、これまでに実施した説明会の実施結果は、発電所ホームページでご紹介しています。

説明会のお知らせ

※ 事前予約は不要です。

開催日	説明会開催時間	発電所構内見学バス運行時間
7月29日(日)	【午後】13:00~14:00	1日2便(12:00~/15:00~)
8月12日(日)	【午前】11:00~12:00	1日4便(10:10~/12:10~/14:30~/15:30~)
13日(月)	【午後】13:00~14:00	
14日(火)	※各日とも1日2回開催	
15日(水)		

<説明会について>

【開催場所】 サービスホール受付前ロビー

【所要時間】 約60分

【説明内容】

- ・ 福島第一原子力発電所事故の概要と現在の状況
- ・ 地震の教訓と柏崎刈羽原子力発電所の安全対策

<発電所構内見学バスについて>

【所要時間】 約40分

【見学内容】 津波対策工事の実施状況

※ 参加ご希望の方は、運転免許証もしくは住民基本台帳カード(顔写真付)をお持ちください。



【お問い合わせ】 サービスホール ☎ 0120-34-4053 (9時~16時30分)

(おひらき)

みなさまの声を聞かせください
1. 「放射線」について、ご質問がございましたら、お聞かせください。

2. 発電所に対して、その他ご意見・ご質問がございましたら、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました

こちらのがきで
ご意見・ご質問を
お寄せください。

2012年7月15日発行 (H24-R-4)
編集発行責任者
柏崎刈羽原子力発電所
広報部企画広報グループマネージャー
〒945-8601 柏崎市青山町16番地46
☎ 0120-120-448
(フリーコール: 平日 9~17時)

発電所ニュース

津波対策の取り組み状況をお知らせします

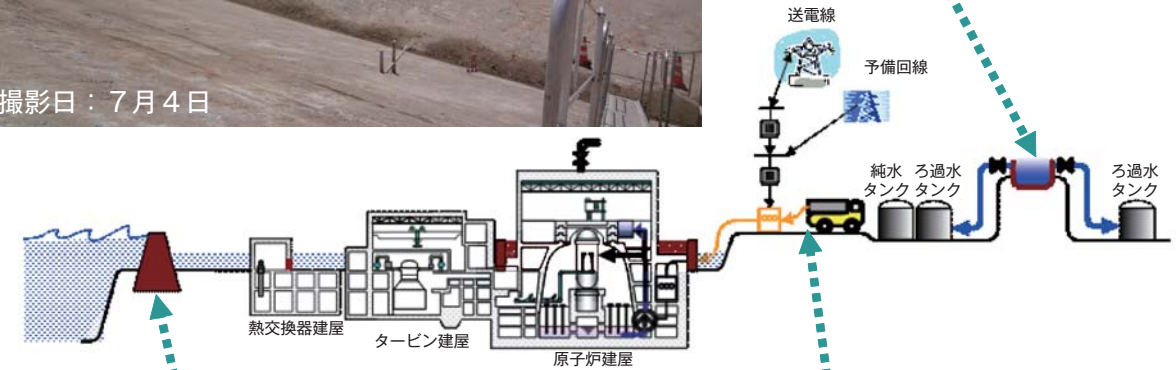
- ◆ 発電所では、「電源車の配備」「防潮堤の設置」「訓練の実施」など、想定を超えるような津波への対策を進めています。
- ◆ 屋外での作業が多く実施されていますので、熱中症対策にも配慮しながら、安全を第一に工事を行っています。

淡水貯水池の工事状況



撮影日: 7月4日

- 原子炉や使用済燃料プールを冷却するための水源を多様化するために、淡水の貯水池を設置します。
- 貯水池の大きさは64m×120m。セメント改良土で築いています。
- 地震時の漏水防止のため、遮水シートを敷いてから、約2万トンの水を入れます。



防潮堤の工事状況

5~7号機側の
セメント改良土の盛土(海拔15m)
6月末で約9割終了



撮影日: 7月4日

電源車等の配備状況

海拔約35mの高台に
空冷式ガスタービン発電機車配備完了



地下に5万ℓの軽油タンク
3基を設置完了

撮影日: 7月4日

はがきでお寄せいただいた「声」にお答えします

Q. 100万キロワット級（およそ原子力発電所1基分）の火力発電所を1年間運転するために必要な燃料はどのくらいですか？

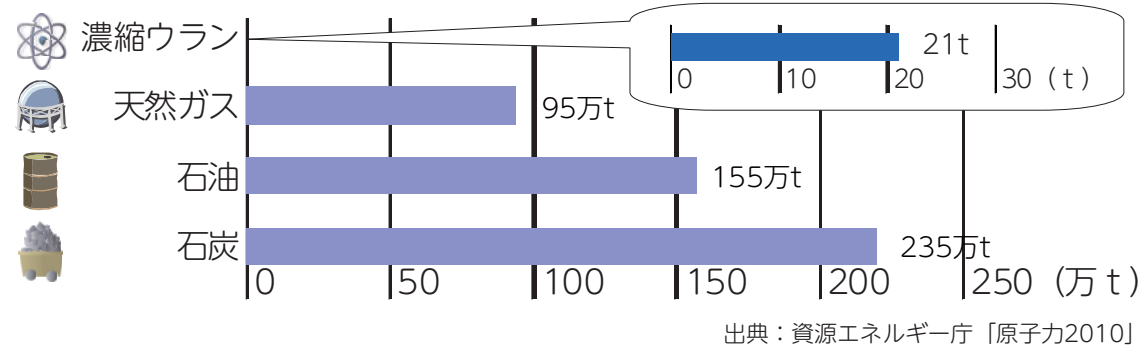
A. 天然ガスで約95万t、石油で約155万t、石炭で約235万t必要です。
 なお、原子力発電所では濃縮ウラン約21tです。

火力発電は、需要の変動に柔軟に対応することができるため、電力供給の中心的役割を担っています。また、燃料確保の安全性や環境対策などの面から、硫黄分を含まないクリーンなエネルギーであるLNG（液化天然ガス）、LPG（液化石油ガス）、そして石油系燃料（重油、原油など）や石炭など幅広い燃料を使用しています。

なお、日本では、2度の石油ショックの経験から、発電方式の多様化を目指して、原子力、LNG、石炭など、石油に代わる電源の開発と導入が進められてきました。また、環境性に優れた再生可能エネルギーの利用拡大にも取り組んでいます。

主要国の中でもエネルギー資源に乏しい日本において、電力の安定供給を確保するために、長期的なエネルギーセキュリティの確保が重要です。

■100万キロワット級の発電所を1年間運転するために必要な燃料



Q. 福島第一原子力発電所とチェルノブイリ原子力発電所の事故レベルの違いを教えてください。

A. 「国際原子力・放射線事象評価尺度」では、共にレベル7です。

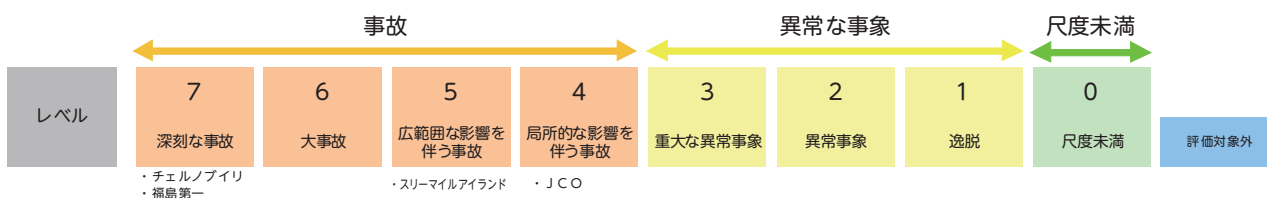
原子力施設の故障・トラブル等については、「国際原子力・放射線事象評価尺度」（INES）を用い、レベル0から7までに分類されます。

福島第一発電所事故とチェルノブイリ発電所事故（1986年）は、レベル7と評価されています。ちなみに、スリーマイルアイランド発電所事故（1979年）はレベル5、JCO臨界事故（1999年）はレベル4とされています。

なお、当社では、福島第一発電所の事故による大気への放射性物質の放出量の評価を行った結果、国際評価尺度（INES）で90万ベクレルと推定しました。（平成24年5月現在での評価）

（参考：チェルノブイリ発電所事故による放射性物質の放出量520万ベクレル）

※ 1テラベクレル= 1兆ベクレル



今後もみなさまの声にお答えしてまいります

【シリーズ】放射線のはなし⑥

～体内に入った放射性物質はどうなるか～

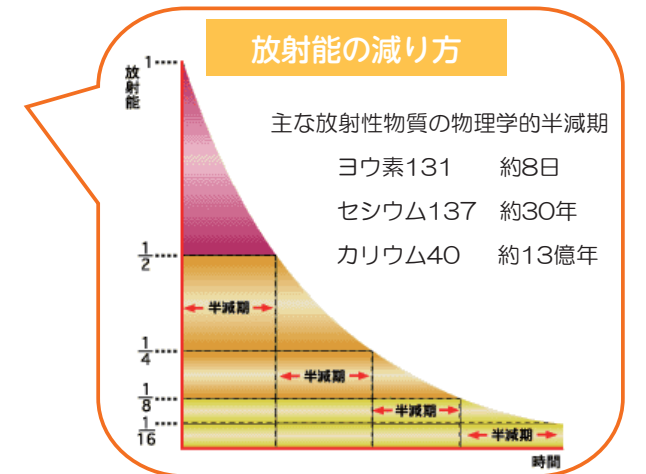
◆ 前は、食品中の放射性物質の基準値をご紹介しました。（例：一般食品の放射性セシウムの基準値100ベクレル/kg）
 今回は、体内に入った放射性物質がどうなるかについてご紹介いたします。

◆ 放射性物質が放射線を出す能力（放射能）は時間が経つとともに減っていきます。放射能が半分になるまでの時間が「半減期（物理学的半減期）」です。

◆ また、体内に入った放射性物質は、体の代謝作用により尿などと一緒に体外に排出されます。こうした体内に入った放射性物質の量が半分になる時間を「生物学的半減期」といいます。なお、代謝の活発な子どもの方が早く排出されます。セシウムの場合、体内にある量が半分になる時間は成人で約90日、1歳児で約9日とされています。

◆ なお、私たちはご飯・パン・野菜などを通じて、太古から自然界に存在するカリウム40（放射線を出します）を体内に取り込んでいます。

◆ 体内に入っても代謝作用により排出されますが、食事により繰り返し体内に入るので、約4,000ベクレルのカリウム40が常に体内にあります。体内にあるカリウム40から受ける放射線は、年間約0.2ミリシーベルトです。



【発電所ミニデータ】

- 柏崎刈羽原子力発電所で現在働く人は5,913人です。（7/2現在）
- 内訳は以下のとおりです。

<東京電力>		(人)
県内	柏崎市	923
	刈羽村	90
	その他	116
県外		111

<協力企業>		(人)
県内	柏崎市	2,336
	刈羽村	207
	その他	1,083
県外		1,047

<合計> 5,913

〒110-0001 東京都千代田区千代田 9-4-5 柏崎刈羽原子力発電所 広報部 (柏崎支店私書箱53号) 945-8790-4

郵便はがき 9458790

料金受取人郵便番号 15

差出有効期間 平成25年3月31日まで (切手不要)

〒110-0001 (郵便番号)

差し支えなければご記入ください

お名前 年齢 歳 男・女

ご住所 〒

お電話番号

ご記入いただきました個人情報については、質問などへの回答、紙面づくりの参考以外では使用いたしません。(2012年7月号)